



林業体験の現場を視察する侍浜地区の皆さん

発展に向け

受け入れ倍増に向け
求められる海の活用

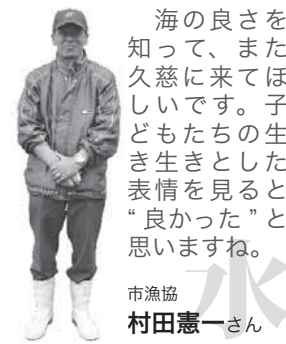
校数限界に課題も

学校から高い評価を受けている教育旅行ですが、課題がないわけではありません。学校の年間行事の関係で、教育旅行は5月に集中する傾向にあります。久慈市を希望する学校は年々増えていますが、現在の体制では1カ月に8校程度が限界で、希望校を受け入れきれない状況が続いています。

また、これまで山形を中心に受け入れてきた体験を沿岸地区にも広げ、教育旅行の魅力を高めることも必要です。さらなる交流人口の拡大と地域の活性化に向け、これまで訪れてきた学校を離さずに新しい学校も引き付けられる工夫が求められています。

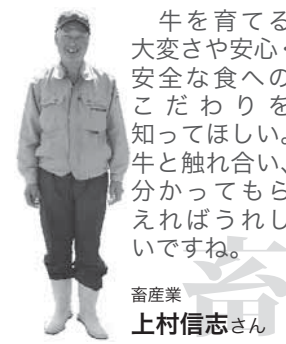
海に広がる可能性

市は平成19年度から海を活用した体験の開発に取り組んできました。平成19年7月からは二子漁業生産部（中平武雄部長）の協力を得てウニの殻むき体験も始めています。



海の良さを
知って、来て
久慈です。子
どもたちの生
き生きとした
表情を見ると
“良かった”と
思いますね。

市漁協
村田憲一さん



牛を育てる
大変さや安心
な食へのの
こだわりの
ことを知って
ほしい。牛と
触れ合い、分
かってもらえ
ればうれし
いですね。

畜産業
上村信志さん

受け入れ側の思い

山の手入れ
が必要な理由
や、山の大切
さを伝えてほ
しい。ひたむ
きに体験して
くれるとうれ
しいですね。

林業
内間木美治さん



生産者の苦
労や食べ物
の大切さを感じ
てほしいです。
体験した子ど
もたちに喜ん
でもらえる飛
びますね。

農業
岩脇ヨシ恵さん

わずか4年で4倍

教育旅行の受け入れは今年で6年目になりました。平成17年度に受け入れた県外の教育旅行生は424人、平成20年度には1755人まで増え、わずか4年で4倍以上になりました。5月20日現在、本年度も約1600人が仙台市や首都圏から訪れる予定となっています。（左表）

教育旅行で訪れる学校は9割がリピーターです。驚くことに、ほぼすべての学校が継続して久慈市を教育旅行先に選んでいるのです。

これは体験内容への満足感と、久慈市への信頼の表れといえるでしょう。久慈市で経験する自然の中での体験と人とのふれあいが、訪れた生徒の糧になっている証しです。

【表1】教育旅行の受入数

年度	学校数	生徒数
17	4校	424人
18	5校	780人
19	11校	1,595人
20	13校	1,755人
21	13校	1,775人
22	10校	1,603人

※県外の教育旅行生のみ
※22年度は5月20日現在

高まる理由

リピーター9割
結びつく心と心

感動は人から人に

今年4月28日には侍浜地区を対象に、海を活用した体験の開発について説明会を開きました。5月15日には43人が山形町で教育旅行を受け入れる様子も視察しました。

視察した横沼漁業生産部の越戸勝雄部長は海で体験を行う可能性について語ります。「例えばウニとりや定置網など、海を利用した体験もできるのではないかと思います。課題は、地域内の協力を広めていくかどうかですね」。

教育旅行の魅力拡大の可能性が広がり始めています。

今年で5年連続となった仙台市立将監中学校の教育旅行は5月10日～12日に行われました。（右下表）

11日午前は、中学2年生197人が班ごとに分かれて、ホウレンソウの摘み取りや間伐作業、牛へのえさやり、ウニの殻むきを体験しました。午後には内間木洞の探検やシヤワークライミング、カヌーなども体験しました。

生徒たちを指導するのは、

【表2】将監中教育旅行の主な内容

月日	行程	宿泊
5/10(月)	16:30～ 平庭山荘で入所式 19:20～ キャンプファイヤ	平庭山荘
5/11(火)	9:00～ 体験プログラム 午前…第一次産業体験 午後…自然体験 16:00～ 民泊先に出発	民泊
5/12(水)	10:30～ 森のボランティア活動 12:30～ 平庭山荘で退所式	—

なぜ久慈なのか？ 仙台市立将監中の声



「信頼できる体験の場」

久慈市を訪れるのは5年連続です。久慈市は土地も人も信頼が持てる体験の場ですね。仙台にはない豊かな自然と農林水産業がそろっていて、生徒に多くを体験させられるところがいいですね。

右/山崎幸義 教頭
左/横山俊二 先生

「感動！また来たい！」

コンビニは遠いし夜も暗い。正直、来る前は怖いと思っていました。でも久慈市の人たちが気軽に接してくれて感動！仙台ではできない山や川での体験もできて楽しいです。また来てみたいです！



右/関 裕之くん(2年)
左/鈴木涼介くん(2年)



今後の抱負を語る下館部長

自信持てば呼べる

教育旅行生が訪れるということ。それは久慈の自然や暮

らし、そして人に魅力があるということ。わたしたちにとつては普通の暮らしや人間関係などでも、都会に住む生徒には輝いて見えるのでしよう。

教育旅行生が増えるということは久慈ファンが増えていくということです。将来、大人になった生徒たちが家族で久慈を訪れたり、スーパードで久慈産のものを手に取ったりするかもしれません。

下館満吉産業振興部長は、教育旅行の発展に向けて抱負を語ります。

「ありのままの自然と暮らし、そして輝く人の存在が久慈市の武器です。教育旅行が地域にもたらす経済効果は年間約3600万円にのぼります。

「沿岸地区でも受け入れられるようになれば経済効果は倍増、1億円も夢ではないと思います。沿岸地区の皆さんと連携して教育旅行の発展を目指したいと思います」。

教育旅行のススメ。教育旅行の成功は、わたしたちがこのまちに自信を持ち、訪れた人に心を入れて接すれば、人を呼び込み、地域を活性化できることを物語っています。

まちの魅力はまだまだあるはず。地域の宝を探し出し、自信を持って、まちをもっと盛り上げていきましょう。

自然、暮らし、人が武器 沿岸地区と連携し、 教育旅行の倍増を